

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070200876		
法人名	医療法人社団 醫光会 ケアピース		
事業所名	グループホーム めだか		
所在地	群馬県高崎市上豊岡町 896-1		
自己評価作成日	令和6年11月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和6年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

単独のグループホームとは違い、母体が老人保健施設を中心とする組織の中のグループホームとして、そのメリットを活かし協力体制が整っているホームです。また、協力医療機関であるはぎわら医師の往診や訪問看護こすもすとの連携により、いつでも電話での相談ができる環境にあります。薬剤師による薬剤管理指導もあり、医療面でも安心して入居者様が生活出来、職員も安心して業務が出来る環境にあります。生活面では、外出行事は自粛中にはなりますが、毎月の行事をホーム内で行ったり、毎日の日課として(ラジオ体操・リハビリ体操)を行って身体を動かし、(カルタ・トランプ)で脳の活性化を図ったりしています。また、室内のお掃除や洗濯物たたみなどを可能な入居者様と楽しく行ったりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「心をつなぎ合い支え合い、その人らしい生活を楽しめるよう支援します」をもとに、共用空間や居室などの清掃や洗濯たたみなどを職員と利用者と一緒に、家庭生活の延長として事業所での暮らしが継続できるよう支援している。運営推進会議は利用者も含めた参加者で構成し、市担当者や家族等が参加しやすいように時間や曜日を設定して、多くの参加につながるようにしている。また、会議では、利用者から日々の生活でのたのしみなどの意見の表出の場としている。その他、職員は生活歴をもとに、日々の会話の中から思いや意向を把握している。利用者がトイレで排泄を行うことは当たり前のこととして考え、体操などを日々することで、トイレでの排泄ができるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	めだかの理念として『心をつなぎ合い支え合いその人らしい生活を楽しめるよう支援します』を掲げ職員と共有して入居者様のケアを実践しています。	理念の実践のために、生活歴等から利用者を知り、家族のように一緒に生活するように努めている。気持ちが不安定な利用者には息子の話をするなどして、利用者が和める話題を提供することで、笑顔を引き出せるような支援をおこなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が月に一度来訪され、(書道)を指導してくださり、二ヶ月に一度(華道・茶道)を指導して頂いていましたが、現在も新型コロナウイルスにより中止しています。	コロナ禍以前は積極的にボランティアを受け入れていたが、受け入れ再開にむけてボランティアを募集中である。区長、民生委員との繋がりにより地域の情報が得られ、利用者の支援につなげられるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、運営状況を報告し活動を知って頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年9月より中止していた運営推進会議を再開する。会議では、行事報告・入居者職員の状況報告・研修会・事故報告や意見交換を行い今後のサービス向上に活かしている。	参加者を多く募るため、日程の設定を柔軟に行ったり、利用者全員が会議に加えるようにしたりして、多くの意見が聞けるように取り組んでいる。そうしたなか、地域の方から地元の災害の歴史を教えてもらい、避難場所についての助言を受けた。	議事録の活用などを含めて、次の参加につながる、意見の表出につながるような取り組みにより、さらに双方向的な意見交換につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での(報告や意見交換)を行っています。日常的にはあまり交流はしていません。他に、事故報告や災害報告を行っている。	法人内で行う地域連携会議に管理者が参加し、そうしたなかで入居の相談を受けることもある。法人が安心センターを行っていることで、顔の見える関係があり情報交換が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正委員会を中心に年間で研修会への参加しています。ホームでは防犯上玄関を施錠して必要時には開錠できるような職員が各自鍵を持っています。	落ち着かない利用者に対して、職員がチームで支援するようにして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。「不適切ケアとはどんなケアを思い浮かべるか」など定期的にアンケートを実施することで、職員の支援の状況の振り返りと、意識づけを図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心に年間で研修会へ参加しています。また、委員会からの虐待の芽チェックリストの自己チェックを行い高齢者虐待を防止に役立てています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、当ホームでは利用されている方はおりませんが、個々に介護福祉士等の勉強で学び、制度の必要性を把握しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定時には、ご家族に十分な説明を行い抱えている不安・疑問に答えて理解と納得をして頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、面会時にお話を伺ったりした情報を申し送りノートを活用し職員で共有して実践に努め反映させています。	運営推進会議で夜間帯の緊急時対応について家族から質問を受けたので、対応方法をフローチャートで再確認し、それをもとに説明を行った。定期的に家族アンケートを実施し、家族の意見を聴取する機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に話し合いを行うよう心掛け意見や提案を共有し反映できるよう努力している。	日頃から、職員からエアコンなど設備の修理や購入についての意見があれば、直ぐに対応している。その他、事業所内の畳敷のスペースの有効活用について検討を行うなど、職員の意見を反映しすすめていきたいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回(上期・下期)半年ごとに各職員と面談を行い項目に添い面接を行い目標の達成状況を把握評価している。相談を受けたり助言をしていただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画に沿い各項目の研修会を開催し自主参加にて参加していただき知識と技術向上に反映している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会の研修案内は会社側よりお知らせがあり希望者は研修許可願いを提出し参加できる。内部研修会では各事業所の職員とグループディスカッションできる環境は整っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者との会話やコミュニケーションを通して困り事や不安に感じている事、要望や希望をくみ取り傾聴して、信頼関係を築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に家族の要望を聴き、困り事や要望や質問に対して納得していただき安心を得られるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	普段の様子をしっかり把握することで、変化にいち早く気が付き職員間で検討することで必要な支援を家族へ説明できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	能力に応じて、洗濯物たたみ・テーブル拭き・枕カバー交換等を一緒に行って協力することで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要時には電話にて状態報告をさせていただいたり、面会時には家族へ日頃の様子を報告させていただき家族と共に情報共有を心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には、これまで本人が使用してきた家具を設置したり、家族の写真を掲示し関係が途切れないように心掛けている。	利用者と家族との絆のことを思い、コロナ禍でも家族と自宅に外泊する機会を作っていた。毎月、事業所内の様子がわかる新聞を発行し家族に知らせている。また利用者に地元の方がいることで、近隣の写真、新聞、地元の番組を見ながら会話をし、支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでは懐メロの歌やリハビリ体操をしたり、また気分転換を図るために外気浴をしたり、入居者同士が交流ができ孤立しないように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された家族や本人からの要望に対して可能な限り対応させていたたく。 現状要望はなし		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、本人の希望を聴いたり、行動や言動の中から本人の思いや意向を察し把握することに努めている。	職員が毎日、挨拶をしながら、今日は何をしたいか、何が食べたいかなどと声をかけ、希望を聞いている。利用者の生活歴などの情報や思いを知り、思いや希望を言ってくれるように関わっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者情報書や本人・家族からの話を伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者情報書や本人・家族からの話を伺い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・必要な関係者と話し合いを行い個別介護計画を作成し、状態が変化した場合にはカンファレンスを行い計画の変更を行っている。また、半年に一度のモニタリングはケアマネ中心で開催している。	生活歴を中心にケアプランを作成し、計画書の2表を日誌に添付して、職員はサービス内容を確認しながら、記録を行っている。利用者1名に対して2名の職員が担当になり、担当者会議の前にモニタリング用紙に記入している。利用者の状態に変化があれば、ケアプランの変更を行っている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個々に、日々の様子やケアの実践、気づきや、特記事項などを記録して、職員間で共有し感じたことなどを話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々に変化する個々のニーズに柔軟に対応出来るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は他の地域資源を活用してはいないが、情報を把握して、いつでも柔軟に活用ができる体制を整えていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の意向を伺い、納得を得た医療機関を利用されている。事業所と医療機関は往診も含め連絡は密に行っている。希望で歯科往診も対応している。	月1回の往診時に利用者の情報シートに記入して、医師との情報共有を図っている。薬剤師の訪問があり、薬剤の管理や事業所からの相談を受けている。夜間の緊急時には、隣接の訪問看護が対応し適切な医療を受けられるようつないでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは、訪問時や必要時電話で連携を取り緊急時など日中夜間問わず迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーと連絡を取り、情報交換や相談を行い入居者にとってより良い医療が受けられるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期に係わる書類の説明をし署名を頂いているが、グループホームでは限界がある旨も理解していただいている。	食事が出来なくなってきたら終末期と判断して、医師から家族に状況を伝え相談し、その後の対応を意向を聞きながら行っている。法人内の老人保険施設なども視野に入れて選択肢を伝え、希望にそって対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	教育委員会主催の研修会へ参加し学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中夜間・火災を想定した防災避難訓練を実施し消防署の指導を受けている。またBCP研修は教育委員会主催の研修会へ参加している。 地域との協力体制は築けていない。	法人で合同の訓練を実施する事で、非常時の関連施設との協力体制を築いている。避難時の利用者の誘導ができたかどうかは、居室のドアを閉めることを目印として、職員間での周知を図っている。日常の訓練では、消火器の使い方を行っている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人の誇りやプライバシーを損ねない様に個人の気持ちを大切にし声かけや対応に注意を払っている。	利用者を人生の先輩として、それに見合った対応を心掛けている。その人らしく生きることが尊厳を守る事であり、自分の家族であつたらどうかという視点で、対応している。具体的には、トイレ誘導時は近くから声をかけ、周囲への配慮をしたり、入浴時は、同性介助を行ったりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自分の思いや希望を発言でき決定しやすくなるように日頃からコミュニケーションを大切に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のリズムやペースを大切に、家事手伝い・レクリエーションの誘いはけして無理強いせず本人に決めていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人にその日の好みで自由に選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や調理は職員が行っている。イベント時のおやつ作りなどは協力していただくこともある。	利用者は食べることが楽しみと言われるので、より楽しんでもらえるよう食べたい物を聞くようにして、食事の他おやつにも反映させている。また、誕生会や行事食などを取り入れて、楽しみ事とつながる食を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼食・夕食は、外部業者によるメニューにて栄養バランスを行っている。量や好みなどは個々に合わせて対応しています。水分・食事摂取量は記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は、洗面所にて口腔ケアを行っている。月に一度は、歯科衛生士の指導により口腔管理を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成することで、個々の排泄状況の把握と排泄パターンの把握を行い、声かけのタイミングを図りトイレでの排泄支援を心掛けている。	排泄支援は尊厳を守るケアと捉え配慮するなかで、毎日の体操やフットマッサージなどを行うことで、トイレでの排泄が可能でいられるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や影響を理解し、水分・食事・運動を促し、必要に応じて医療機関と連携を取りながら便秘薬の調整を行う。排便の有無は記録に残し把握する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日の確保する。現状(月・火・木・金)で入浴日を設定している。	週4日を入浴の日と決め、入浴日は職員の配置を多くして、安心安全な入浴支援を行っている。週2回の入浴はマンツーマン入浴で会話をしながら、季節にあわせた入浴剤をいれたりして、楽しめる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人異なった生活習慣であったことを十分把握したうえで、状況に応じ入居者の希望やペースを考慮しながら、休息や安眠が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師がホームに直接訪問し服薬の支援を行う。居宅療養管理指導を行っている。入居者が服薬している薬の目的や用法・用量・副作用などを薬上で確認し、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの情報も取り入れて、入居者一人一人の生活歴を把握し、その方の出来る事を考えながら本人が楽しめるように支援を心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在外出行事は中止になってます。今後計画して支援していく。	コロナ禍前は外出支援を多く行っていたが、現在は、日常的には周辺の散歩を行い、景色を見ながら季節の移り変わりを感じてもらったり、会話をしたりして、気分転換が図られるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の方針で入居者の現金は管理・所持できない事になっていますが、本人の希望している買い物などは家族に伝え買って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には観葉植物や手作りの掲示物、ホールにはイベントの写真、季節の壁面制作を飾り快適に居心地よく過ごせるよう工夫している。	ホールでは、それぞれの利用者の過ごし方を尊重し、気の合った利用者同士が隣に座り、会話を楽しんでいる様子も見られる。大きなカレンダーや花を飾った時計など、わかりやすいことで安心できる空間をつくっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現在検討と模索中です。たたみのスペースの有効活用について。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に馴染みの家具を持ってきていただいたり、家族の写真を貼ったりしていただいている。	入居時に家族に相談し、自宅で使っていた布団など馴染みの品物を持ってきて頂き、家庭のように安心して過ごせるような居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーで、手すりが設置・トイレは広く車椅子でも自由に使用でき、安全でかつ出来る限り自立した生活が送れるように工夫している。		